

伝えよう マイ・ハート

－ 受け手を意識し、自分の思いを分かりやすく伝えることのできる児童の育成を目指して －

岡山市立操南小学校 教諭 梶川 素子

e-mail sonans@city-okayama.ed.jp

<http://www.city-okayama.ed.jp/~sonans/esukuea/gakkoukikaku2.html>

キーワード：小学校，特別支援学級，総合的な学習の時間，音読，表現力育成，タブレットPC

1. はじめに

本校の児童は、学習場面で発表する時に声が小さくて聞いている人を意識した発表の仕方でなかったり、文で様子を伝える時に、第三者が読んでよく分かる内容でなかったりするなど、受け手を意識して分かりやすく伝えようとする意識が薄い傾向が見られる。そこで、動画や静止画を表現活動の学習の振り返りに活用し、分かりやすく伝えることのできる表現力を育成する実践を行うことを考えた。

本実践は、平成16年度Eスクエア・アドバンス「心も伝えるビデオクリップ掲示板インターフェース開発」の取り組みで研究開発された画像簡易作成ツール「ぞうかめさん」とタブレットPC（デスクトップPC）を活用して実践を行ったものである。

2. 実践の概要

（1）小学校第1学年 生活科 「うちのひとに伝えよう わたしのアサガオ」

タブレットPCとPCカメラを使用して、児童は「ぞうかめさん」のカメラ機能でアサガオを撮影し、お絵かき機能で日にち、気付いたこと等を撮影した写真に書き込む。その後、プリントアウトしたアサガオの写真にお世話の様子や自分の願いなどを観察記録日記として書き、おうちの方に渡して励ましの返事を書いていただいた。おうちの方との交換日記という双方向のやりとりで、児童は、おうちの人に進んでアサガオのことを知らせようとし、身近な人々との望ましい情報交流の態度や、アサガオを大切に育てようという思いも高めることができた。



写真1 PCカメラでアサガオを撮影

（2）小学校第3学年 総合的な学習の時間 「自分の宝物を紹介しよう」

自分の宝物を友だちにプレゼンテーションして紹介する取り組みである。初めに、プレゼンテーションの資料となる写真を「ぞうかめさん」のカメラ機能で撮影した。次に、「ぞうかめさん」の動画撮影機能でプレゼンテーションの練習を撮影し、動画を再生させて話し方を友だちと共に振り返り、分かりやすい話し方ができるように繰り返し練習を行った。めあてを持って取り組むことで、受け手を意識した話し方ができるようになっていった。最後に、学年集会でプレゼンテーションの発表会を行った。



写真2 プレゼンテーションの練習

（3）特別支援学級 国語 「おはなし がんばるぞう」

学校でできるようになったことについて作文をし、それをビデオカメラの前で繰り返し音読する練習を行った。音読の様子を録画し、動画を再生させて良くできたところを確かめたり、修正点を確認したりしながら練習を繰り返すことで、はっきりと、気持ちを込めて音読できるようになっていった。タブレットPCの画面をペンでクリックすれば録画・再生などの操作が自分で簡単にできることも意欲につながった。



写真3 画面をクリック



写真4 修正点を確認

4. 成果と今後の課題

画像簡易作成ツール「ぞうかめさん」は入力方法のルールが簡単で理解しやすく、さらにタブレットPCには、操作点と作用する点が一致しているというメリットがあるため、低学年や知的障害のある児童でも無理なく操作を行うことができる。また、録画したあと、画面をクリックすればすぐに動画を再生することができるので、活動の意欲をとぎれさすことなくスムーズに学習を進めることができ、短い時間でも多くの練習が可能となる。以上のような事が表現力育成の効果を高めたと考える。

しかし、動画を再生させて学習の様子を振り返る活動で、自分ができていないことをかえって意識してしまう児童には、児童の実態にあっためあてを設けるなどの配慮が必要であり、今後の課題である。